

# 高萩のサクラ 陸前高田に

## 2回に分け苗木100本

高萩市の「高萩さくらの会」と県立日立工業高窓会「日立工会」高萩支部は、岩手県陸前高田市のNPO法人にサクラの苗木50本を贈る。東日本大震災の津波による被害を受け、同NPOは、同市の津波到達ライン約1700mに沿ってサクラの木を植えるプロジェクトを進めている。震災の記憶を後世に伝え、津波避難の目印とするのが狙いで、高萩の2団体が趣旨に賛同して取り組みを後押しする。



高萩さくらの会  
日立工高窓会



## 津波到達ラインに並木

陸前高田市のNPO法人「桜ライン311」(岡本翔馬代表)は2011年11月から、津波到達ライン10m置きにサクラの木を植える取り組みを開始。完成すれば1万7千本のサクラ並木となる。これまでに愛知や北海道などから寄せられた650本を植樹した。岡本代表は「震災を風化させないで伝えるとともに、サクラの木を津波到達点の目印として、今後、津波の恐れがあるときにはサクラ並木より西側に避難するよう伝承していくことが目的」と話す。高萩から贈る苗木は、高萩さくらの会が

6年前から育てていた高さ約4mのオシマザクラ。同NPOの取り組みを知った高萩市安良川の石川洋一さん(77)が2団体に呼び掛け、苗木の寄贈を決めた。昨秋も50本を贈っている。

2団体のメンバー20人が6日、苗木の掘り起こしや根巻き作業、発送準備を行った。7日夕にトラックに積んで出発し、8日午前8時ごろ、陸前高田市に到着する予定。15日、津波到達ラインの一角に植樹される。苗木の寄贈を提案した石川さんは「以前から陸前高田とは交流があり、縁を感じた」と話した。

震災で同市を襲った津波は、海岸線から内陸へ最長6mにも達した。同市の被害は、全半壊3341戸、一部損壊27戸の計3368戸。当時の人口2万4246人のうち、1735人が津波や地震で亡くなった。

陸前高田市に寄贈するサクラの苗木の準備作業＝高萩市下手綱

茨城新聞HPに動画

(小室雅一)

2014年3月8日 茨城新聞

